

# 三月の保育

## 生活訓練

倉橋 惣三

### 保育終了式。

三月は、保育終了といふ、幼児にとつて大きな時である。勿論保育は日々々々であり、又、三月から四月へ、すら〜と幼稚園生活が終る譯ではある。しかし、幼児にとつて、幼稚園といふ一つの教育期間を終るといふことの、その區切りをはつきり感じさせることは、教育的意義をもつものである。謂はゞ、生活訓練の一つの大きな事項である。

この生活訓練には、種々の貴重な感じが含まれてゐる。(一)生活の一と區切りを感じるといふこと。(二)先生方への感謝といふこと。(三)友達との別れといふこと。(四)次の新生活への發足といふこと。學校の卒業に當つては、年齢に應じて、これら以外のいろいろの反省回想といつたこともある。幼児には、そう多くのことはない。又、それらのことだけにしても、極めてあつさりしてゐる。しかし、幼いながらに、これらの感じはあるのである。

幼児のこれらの感じに應じて、保育終了式が行はれる。その式

次第はまち〜であつて一定してゐない。式として相當嚴なものあり、式らしくないものもある。わざと式らしくないところに幼稚園らしさがあるといふのも、一應の考へ方で、餘りに形式的で、幼稚園の式か中學校の式か分らぬといふやうなに対する反對の極端でもある。しかし、保育終了の喜の行事といふだけでなく、一つの生活訓練で、これによつて、一つの躰けをしてゐるのであるといふ時、幼稚園は幼稚園なりに、式の形式を行ふべきである。殊に、形式感といつたものが、だん〜出て来る年齢として、それが却つて保育終了幼児への自然でもある。國民儀禮も、保育終了證書授與も、園長式辭も、幼兒總代謝辭も、無くては、もの足りない年齢であり、それが立派に出来る年齢でもある。

たゞ、形を一應きちんとするとして、その内容に於ては、幼稚園としての特色がなくてはなるまい。保育終了證書授與などが、しつかり行儀正しくといふのは素よりそうでなくてはならぬが、式辭、謝辭に於て、それは形に盛られる心であるから、幼稚園らしさを離れてはならない。それを誤り、心ないことを言つたり言はせたりしては、空な形式になる。形式は形式で、いる時にはいる。内容によつて、空形式になるのはいけない。一體、上級學校の場合などでも、卒業式に於て、今までの教育にない新しい教訓などがある譯ではない。そういふことは、卒業に臨んでといひながら、式とは別に、その前に、〇〇と説示せられる苦のことである。即ち、式としては、卒業者が既に心に一ぱいに持つてゐる感想と覺悟とを、それを強めるのが主である。幼稚園の場合も同じで、幼児は自分達の今日の心を、園長先生に言つて頂くのが有

り難いのである。自分で言ひあらはせない心持ちを、親愛の言葉で言つて貰ふのが嬉しいのである。

幼児の謝辭は殊に簡單がいゝ。大人のやうな言葉を教へ込んで、言はせるのはよくない。殊に、別れを悲しむといつたやうの言葉を言はせるのは、そうして來賓席の婦人達を泣かせるやうなことは、嚴禁である。保育修了式全體を通じて、感傷は禁物である。

式は式として、その前後を以て、先生との個人的な親愛の言葉は、最も大切である。殊に子ども喜びを喜んでやる先生の態度こそ、その日の花である。又修了は幼児であるが、此の日、親達殊に母親のためにも、意義ある日にしたい。ところで、かうした喜びの日、殊に教育上の喜びの日に於て、なぜ喜ばしいかを語るに就て注意を要することがある。どうかすると、かういふ時に個人主義的の言葉が出やすいからである。勿論、その子のため、その家のため、目出度い日に相違なく、その心もちを拒けるのではない。しかし、かういふ時にこそ、國の意識が強く出なければならぬ。此の喜びも國のお蔭であることを、そして此の喜びも、國のためであることを、しつかり明らかにしなければならぬ。殊に、之れから進む國民學校の本旨に基いて、そこへ入學するのは自分のためでなく國の爲であることを明らかにし、その爲に幼稚園を出たことが、國の爲であつたことを、その日には明らかに出来るのである。幼児に對して、そうであると共に、否、それ以上に強く、親に此の意識をもたせなければならぬ。此日を母親に意義あらしめたいと言つたのは、此の意味である。

結び、羨げられた子。

生活訓練一ヶ年。素より不十分な説き方であつたし、殊に、事項に就て偏つてゐたかとも心配する。しかし、羨は個々の羨げに終始するものでなく、ごこの點からでも、全體を羨げてゐる譯である。幼稚園の羨げも、個々の事項に就て、ざれだけ徹底完成したかはなか／＼むつかしい。たゞ、全面的に「羨げられた子」であつてほしいのである。その子の性格そのものが羨げられた性格であり、従つて、之れからも、更に高い羨げを正しく受け得る性格であつてほしいのである。先生方の此點の御苦勞を謝し、羨げられた幼児達の幸福を思つて、此の稿を終る。

### 自由遊戯

上遠文子

桃のお花も咲きはじめました。ふつくらした桃の蕾にも春の感觸を味ひます。野に山に小さい芽が顔を出し始め子供達もぐんと一ひび春の空氣を思ふ存分吸ひ込んでみませう。

開戦ごっこ 人数が多い程面白い遊びです。二手に分れ、それ／＼お庭の木に陣をきめて陣ざります。「開戦」といふ兩軍の勝どきで兩軍互ひに攻めよめます。どんどといつて敵軍とあたると互ひにじやんけんして、負けたら敵軍にとらはれる。又その場合負けたら鬼になりつかまへ、陣に逃げ込むと助かる。即ちその間につかまらぬ様にすばやく逃げ、捕まれば捕虜になるといふのもよろしいのです。味方が捕虜になつた場合、直ちに助けに出かけますが、敵は捕虜をとられまいと、防備おさ／＼おこたりま